

第55回 仏教公開講座

生きるって ということ

真宗大谷派岐阜教区・岐阜別院

日 時	2009年1月20日（火）午後6時30分～8時30分	
講 師	中 村 薫 先生（同朋大学教授）	
講 題	「親鸞聖人の出家得度」	
日 程	6時30分	真宗宗歌・正信偈（同朋奉讃式）
	6時45分	講義
	8時15分	質問の時間
	8時30分	恩徳讃・閉会



講師紹介

中村 薫（なかむら かおる）

1948年愛知県生まれ。

大谷大学卒業、大谷大学大学院博士課程修了。

現在、同朋大学大学院教授。博士（文学）。

真宗大谷派 養蓮寺住職。

著書：『いのちの根源』・『華嚴の浄土』・『いのちの確かめ』等。

先生からのメッセージ

親鸞聖人は、4歳の時父親と別れ、8歳で母親と死別された。弟たちと共に叔父にあずけられた。子どもは親により生き方を決められてしまう。両親が元気で長生きしたら、親鸞聖人の出家はなかったかもしれない。また、当時は源平の争いがあり、平家一門が興隆を極めていた。母方が源氏であったので親鸞聖人の前途は暗かったかもしれない。そして、鴨長明の『方丈記』の「養和の飢饉」を見てみると、京の町は荒れ果てて、4月から6月にかけて4万2千人を越える人が餓死したと出てくる。そんな状況の中で親鸞聖人は出家得度を余儀なくされたのである。

いつでも・どこからでも聞ける「テレホン法話」お電話ください。TEL058-265-0033